

北日本ヘア・スタイリストカレッジ

令和6年度

シラバス

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
関係法規・制度	30	30	1	1	必修
【学修内容】					
法の仕組み、運用にあたる行政との関わり、美容師として必要な美容師法の成り立ちやその解釈、関係する法の内容について学習する。					
【到達目標】					
1. 法律、諸制度の読み方や法令特有の言い回しを学び、法律行為が理解できる基礎をつくる。 2. 美容師法を解釈し、公衆衛生確保の重要性、消費者の保護法規や制度の理解を深める。3. 美容師の社会責務を考えることができる。					
【授業の方法】					
講義					
【成績評価の方法と基準】					
各学期末及び学年末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んできてください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。					
【使用教材・教具】					
公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「関係法規・制度」、「美容師法関係法令集」					
【履修にあたっての留意点】					
出席時間数が満たない者には補講を実施する。					
【備考】					
特になし。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
衛生管理	30	30	3	1	必修
【学修内容】					
(衛生) 多様な要因から見た衛生管理を学ぶとともに、美容所における環境衛生の知識を身につける。 (感染症) 感染症はどのような原因で感染し発症するのか、またどのように予防できるかを種類別に学ぶ。 (消毒法) それぞれの消毒法と器具の使い方、消毒薬の希釈法を学び、美容所での取扱と清潔保持を学ぶ。					
【到達目標】					
(衛生) 1、歴史や背景から、衛生管理の重要性を認識する。 2、美容師として衛生管理に何をすればよいか、どう心がけたらよいか理解している。 (感染症) 1、主な感染症について、その特徴や予防対策を述べるができる。 2、病原微生物の構造と増殖環境を理解し、感染症との関連性について理解できる。 (消毒法) 1、それぞれの消毒法を理解している。 2、消毒薬の希釈の計算ができる。 3、美容所における、消毒の注意点を把握する。					
【授業の方法】					
講義					
【成績評価の方法と基準】					
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んできてください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。					
【使用教材・教具】					
公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「衛生管理」					
【履修にあたっての留意点】					
出席時間数が満たない者には補講を実施する。					
【備考】					
特になし。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
衛生管理（衛生・感染症・消毒法）	60	60	2	2	必修
【学修内容】					
(衛生) 多様な要因から見た衛生管理を学ぶとともに、美容所における環境衛生の知識を身につける。 (感染症) 感染症はどのような原因で感染し発症するのか、またどのように予防できるかを種類別に学ぶ。					

(消毒法) それぞれの消毒法と器具の使い方、消毒薬の希釈法を学び、美容所での取扱と清潔保持を学ぶ。
【到達目標】
(衛生) 1、歴史や背景から、衛生管理の重要性を認識する。 2、美容師として衛生管理に何をすればよいか、どう心がけたらよいか理解している。
(感染症) 1、主な感染症について、その特徴や予防対策を述べるができる。 2、病原微生物の構造と増殖環境を理解し、感染症との関連性について理解できる。
(消毒法) 1、それぞれの消毒法を理解している。 2、消毒薬の希釈の計算ができる。 3、美容所における、消毒の注意点を把握する。
【授業の方法】
講義
【成績評価の方法と基準】
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んできてください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
保健	30	30	1	1	必修
【学修内容】					
(生理) 各器官について部位とそのはたらき、疾病をそれぞれ学ぶ (皮膚) 皮膚及びその付属器官の構造、生理機能、保健衛生並びに皮膚疾患について学ぶ					
【到達目標】					
(生理) 各器官についてのはたらきや症状・疾病を理解し、まとめることができる (皮膚) 1、皮膚及びその付属器官の構造と生理機能について理解できる 2、皮膚及びその付属器官を保護するための仕方を説明できる 3、皮膚疾患に対する予防方法を説明できる					
【授業の方法】					
講義					
【成績評価の方法と基準】					
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んできてください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。					
【使用教材・教具】					
公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「保険」					
【履修にあたっての留意点】					
出席時間数が満たない者には補講を実施する。					
【備考】					
特になし。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
保健	60	60	2	2	必修
【学修内容】					
(生理) 各器官について部位とそのはたらき、疾病をそれぞれ学ぶ (皮膚) 皮膚及びその付属器官の構造、生理機能、保健衛生並びに皮膚疾患について学ぶ					
【到達目標】					
(生理) 各器官についてのはたらきや症状・疾病を理解し、まとめることができる (皮膚) 1、皮膚及びその付属器官の構造と生理機能について理解できる 2、皮膚及びその付属器官を保護するための仕方を説明できる 3、皮膚疾患に対する予防方法を説明できる					
【授業の方法】					
講義					
【成績評価の方法と基準】					
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					

予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んでください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。
【使用教材・教具】
公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「保険」
【履修にあたっての留意点】
出席時間数が満たない者には補講を実施する。
【備考】
特になし。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
化粧品化学	30	30	1	1	必修
【学修内容】					
基礎を学ぶことで、化学変化・反応を理解し、それぞれの化粧品類の知識を身につけることで、その取り扱いや人体に与える影響を学ぶ。					
【到達目標】					
1、美容分野における「酸とアルカリ」、「酸化と還元」、「水と油」の関係を理解できる 2、化粧品の原料を化学的に考えることができる 3、化粧品類の知識を身につけ、美容の施術に役立てることができる					
【授業の方法】					
講義					
【成績評価の方法と基準】					
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んでください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。					
【各コマにおける授業計画】					
【使用教材・教具】					
公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「化粧品化学」					
【履修にあたっての留意点】					
出席時間数が満たない者には補講を実施する。					
【備考】					
特になし。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
化粧品化学	30	30	1	2	必修
【学修内容】					
基礎を学ぶことで、化学変化・反応を理解し、それぞれの化粧品類の知識を身につけることで、その取り扱いや人体に与える影響を学ぶ。					
【到達目標】					
1、美容分野における「酸とアルカリ」、「酸化と還元」、「水と油」の関係を理解できる 2、化粧品の原料を化学的に考えることができる 3、化粧品類の知識を身につけ、美容の施術に役立てることができる					
【授業の方法】					
講義					
【成績評価の方法と基準】					
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んでください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。					
【各コマにおける授業計画】					
【使用教材・教具】					
公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「化粧品化学」					
【履修にあたっての留意点】					
出席時間数が満たない者には補講を実施する。					
【備考】					

得意になし。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
文化論	30	30	1	1	必修
【学修内容】 歴史や時代背景から、ファッションとヘアスタイルの移り変わりを学ぶ。 美容の心理的効果、顔の形、デザインの原理、色彩の基本を学び、表現力を養う。					
【到達目標】 1、時代背景によって、時間の経過とともに服装・ヘアスタイルがどう変化していったのか理解できる。 2、色彩のメカニズムや表現方法の理解を深める。					
【授業の方法】 講義					
【成績評価の方法と基準】 学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んでください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。					
【各コマにおける授業計画】					
【使用教材・教具】 公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「文化論」					
【履修にあたっての留意点】 出席時間数が満たない者には補講を実施する。					
【備考】 特になし。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
文化論	30	30	1	2	必修
【学修内容】 歴史や時代背景から、ファッションとヘアスタイルの移り変わりを学ぶ 美容の心理的効果、顔の形、デザインの原理、色彩の基本を学び、表現力を養う					
【到達目標】 1、時代背景によって、時間の経過とともに服装・ヘアスタイルがどう変化していったのか理解できる 2、色彩のメカニズムや表現方法の理解を深める					
【授業の方法】 講義					
【成績評価の方法と基準】 学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】 予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んでください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。					
【各コマにおける授業計画】					
【使用教材・教具】 公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「文化論」					
【履修にあたっての留意点】 出席時間数が満たない者には補講を実施する。					
【備考】 特になし。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
美容技術理論	90	90	3	1	必修
【学修内容】 美容技術を衛生的、能率的に行うための基礎知識や美容器具、実践的な基礎技術の科学的合理的な方法を学ぶ。					
【到達目標】 それぞれの技術の基礎知識を学び、実習に活かせるよう理解を深める。					
【授業の方法】 講義					

【成績評価の方法と基準】
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んでください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。
【使用教材・教具】
公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「美容技術理論1」、「美容技術理論2」、「理・美容衛生読本」
【履修にあたっての留意点】
出席時間数が満たない者には補講を実施する。
【備考】
特になし。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
美容技術理論	60	60	2	2	必修

【学修内容】
美容技術を衛生的、能率的に行うための基礎知識や美容器具、実践的な基礎技術の科学的合理的な方法を学ぶ。
【到達目標】
それぞれの技術の基礎知識を学び、実習に活かせるよう理解を深める。
【授業の方法】
講義
【成績評価の方法と基準】
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んでください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。
【各コマにおける授業計画】
【使用教材・教具】
公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「美容技術理論1」、「美容技術理論2」、「理・美容衛生読本」
【履修にあたっての留意点】
出席時間数が満たない者には補講を実施する。
【備考】
特になし。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
運営管理	30	30	1	2	必修

【学修内容】
マーケティング、経営管理、労務管理などの基本的な理論、また接客、消費者対応を学ぶ。
【到達目標】
1、マーケティングの基礎を理解し、それを美容業に置き換え考察することができる。 2、「接客」から人とのコミュニケーションについて学び、自ら意思を持ち、就業後はもとより日常生活から活かすことができる。 3、経理について学び、おおよその帳簿・伝票の見方、書き方がわかる。 4、労務管理・社会保障制度について理解を深める。
【授業の方法】
講義
【成績評価の方法と基準】
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んでください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。
【各コマにおける授業計画】
【使用教材・教具】
公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「運営管理」
【履修にあたっての留意点】
出席時間数が満たない者には補講を実施する。

【備考】
特になし。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
美容実習	420	420	14	1	必修
【学修内容】					
美容技術理論の内容に即して、実践実習を行う。					
【到達目標】					
1、器具の安全な取扱いと衛生管理ができる。 2、それぞれの技術の基本操作を習得し、教本を見なくとも実践できる。 3、校外実習・校内実習から最新の美容事情の理解をすすめる。					
【授業の方法】					
実習					
【成績評価の方法と基準】					
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。 1年生の二期末試験、三期末試験は期末試験の成績が90%、校外実習、校内実習の評価が10% 2年生の二期末試験、三期末の評価は期末試験の成績が90%、校内実習の評価が10%					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
技術習得に向け、繰り返し練習を重ね次回の授業に備える。 解らないことなど質問をし、内容を理解してください。					
【使用教材・教具】					
公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「美容実習1」、「美容実習2」					
【履修にあたっての留意点】					
出席時間数が満たない者には補講を実施する。					
【備考】					
特になし。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
美容実習	480	480	16	2	必修
【学修内容】					
美容技術理論の内容に即して、実践実習を行う。					
【到達目標】					
1、器具の安全な取扱いと衛生管理ができる。 2、それぞれの技術の基本操作を習得し、教本を見なくとも実践でき 3、校外実習・校内実習から最新の美容事情の理解をすすめる。					
【授業の方法】					
実習					
【成績評価の方法と基準】					
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。 1年生の二期末試験、三期末試験は期末試験の成績が90%、校外実習、校内実習の評価が10% 2年生の二期末試験、三期末の評価は期末試験の成績が90%、校内実習の評価が10%					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
技術習得に向け、繰り返し練習を重ね次回の授業に備える。 解らないことなど質問をし、内容を理解してください。					
【使用教材・教具】					
公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「美容実習1」、「美容実習2」					
【履修にあたっての留意点】					
出席時間数が満たない者には補講を実施する。					
【備考】					
特になし					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
サロン実習	120	120	4	1	必修
【学修内容】					
技術向上のための講義と実践実習を行うとともに、サロンワーク、接客法、スタイル提案を学ぶ。 一般のモデルを招き、一人のモデルに一人の学生が対応し、一連の施術を行う。					

【到達目標】
1、サロンの流れを理解し、自ら考え行動することができる。 2、責任感を持ち、モデルへの丁寧な対応ができる。
【授業の方法】
実習
【成績評価の方法と基準】
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
予習：次回行われる授業の予習練習をしてきてください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。
【使用教材・教具】
担当教員独自の資料
【履修にあたっての留意点】
出席時間数が満たない者には補講を実施する。
【備考】
特になし。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
サロン実習	90	90	3	2	必修
【学修内容】					
技術向上のための講義と実践実習を行うとともに、サロンワーク、接客法、スタイル提案を学ぶ。一般のモデルを招き、一人のモデルに一人の学生が対応し、一連の施術を行う。					
【到達目標】					
1、サロンの流れを理解し、自ら考え行動することができる。 2、責任感を持ち、モデルへの丁寧な対応ができる。					
【授業の方法】					
実習					
【成績評価の方法と基準】					
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
予習：次回行われる授業の予習練習をしてきてください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。					
【使用教材・教具】					
担当教員独自の資料					
【履修にあたっての留意点】					
出席時間数が満たない者には補講を実施する。					
【備考】					
特になし。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
デザイン	30	30	1	1	必修
【学修内容】					
デッサンの基本的技術、美術品絵画よりデザインを学ぶ。					
【到達目標】					
自分の頭でイメージしたものを絵として形として表現できる。					
【授業の方法】					
実習					
【成績評価の方法と基準】					
学年末において、作品、履修状況等を総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んできてください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。					
【各コマにおける授業計画】					
【使用教材・教具】					
「ヘアスタイル画によるトータルファッション」より、担当教員独自の教材					
【履修にあたっての留意点】					

出席時間数が満たない者には補講を実施する。
【備考】 特になし。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
マナーコミュニケーション	30	30	1	1	必修
【学修内容】					
<ul style="list-style-type: none"> ・美容師として必要な接客技術を習得するための美容店における具体的な接客の事例を学ぶ。 ・接客では敬語の使い方や電話応対を中心に社会人として身につけるべきマナーを学ぶ。 ・身体を動かすことによりストレス解消を図る。 ・パソコンの基本的な操作を習得してコミュニケーションツールに活用すると同時に、IT社会におけるSNS利用時のマナーを学ぶ。 ・就職活動に必要な面接指導、履歴書の書き方等。 					
【到達目標】					
・社会人及び専門職である美容師としてのマナーを身につけて円滑なコミュニケーションを図ることができる。					
【授業の方法】					
実習					
【成績評価の方法と基準】					
学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んできてください。					
復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。					
【使用教材・教具】					
担当教員独自の資料。					
【履修にあたっての留意点】					
運動では怪我に注意する。出席時間数が満たない者には補講を実施する。					
【備考】					
特になし。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
マナーコミュニケーション	30	30	1	2	必修
【学修内容】					
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通して体を動かすことによりストレスの解消を図る。 ・就職活動に必要な面接指導、履歴書の書き方等。 					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・社会人及び専門職である美容師としてのマナーを身につけて円滑なコミュニケーションを図ることができる。 ・就職活動に必要な面接指導、履歴書の書き方をマスターする。 ・社会人としてのテーブルマナーを学習する。 					
【授業の方法】					
実習					
【成績評価の方法と基準】					
学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んできてください。					
復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。					
【使用教材・教具】					
担当教員独自の資料					
【履修にあたっての留意点】					
運動では怪我に注意する。出席時間数が満たない者には補講を実施する。					
【備考】					
特になし。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
ビューティーテクニク	150	150	5	1	必修

【学修内容】
エステ、メイク、ネイル、基本的技術の修得。
【到達目標】
エステ：一連の流れを理解し実践できる。 メイク：メイクアップ検定3級レベルの技術を習得する。 ネイル：ネイルの基礎技術を習得する。
【授業の方法】
実習
【成績評価の方法と基準】
学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んできてください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。
【使用教材・教具】
公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「美容実習2」「美容技術理論2」、教員独自の資料
【履修にあたっての留意点】
出席時間数が満たない者には補講を実施する。
【備考】
特になし

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
ビューティーテクニク	30	30	1	2	必修
【学修内容】	エステ、メイク、ネイル、着付けの基本的技術				
【到達目標】	エステ：一連の流れを理解し実践できる。 メイク：メイクアップ検定3級レベルの技術を習得する。 ネイル：ネイルの基礎技術を習得する。 着付け：浴衣の着付けが行える。				
【授業の方法】	実習				
【成績評価の方法と基準】	学年末において、各学期末に行う試験、履修状況等を総合的に評価する。				
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】	予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んできてください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。				
【使用教材・教具】	公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 「美容実習2」「美容技術理論2」、教員独自の資料				
【履修にあたっての留意点】	出席時間数が満たない者には補講を実施する。				
【備考】	特になし。				

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
総合演習	30	30	1	1	必修
【学修内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・美容業における最新の技術や取り組みに触れる機会を与えるためのデモンストレーションや演習を行う。 ・最新のヘアデザインの学習。 ・校外実習に向けて、サロンワークの事前指導。 ・日頃の授業内容を保護者に見学してもらう。 				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験に挑む態勢や心構えを身につけ、合格ラインまでレベルを上げる。 2. 自ら進んで新しい技術を身につける姿勢を習慣付け、美容業務においては、不断の改善と精進が重要なことを認識させる。 				
【授業の方法】	演習				

【成績評価の方法と基準】
学年末において、各担当の授業終了後に行うレポートや試験、または履修状況等を総合的に評価する。
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んできてください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。
【使用教材・教具】
各科目の教科書、担当教員の独自の資料。
【履修にあたっての留意点】
出席時間数が満たない者には補講を実施する。
【備考】
特になし。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
総合演習	90	90	3	2	必修

【学修内容】
必修課目（学科）の復習や国家試験実技課題のトレーニング及び模擬試験により、美容師国家試験の準備をする。美容業における最新の技術や取り組みに触れる機会を与えるためのデモンストレーションや演習を行う。わが国の伝統文化の一環として美容教育を捉え、茶道、華道、服飾（着付等）の学習を深め、日本人としての美意識を培う。
【到達目標】
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に挑む態勢や心構えを身につけ、合格ラインまでレベルを上げる。 ・自ら進んで新しい技術を身につける姿勢を習慣付ける。 ・最新のヘアスタイルや似合わせの技術を学習する。 ・作品の制作を通じて協調性や自主性を養う。
【授業の方法】
演習
【成績評価の方法と基準】
学年末において、各担当の授業終了後に行うレポートや試験、または履修状況等を総合的に評価する。
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
予習：次回行われる授業範囲の教科書を読んできてください。 復習：教科書やノート、配布資料を基に授業内容を理解し、わからないことを調べたり質問したりして下さい。
【使用教材・教具】
各科目の教科書、担当教員の独自の資料。
【履修にあたっての留意点】
出席時間数が満たない者には補講を実施する。
【備考】
特になし。